

福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（5月分）

留学先：ルーマニア・アメリカ大学

氏名：奈良 健一郎

学習面では、2nd module が始まりほとんどのクラスで Exam や Project が終了したところです。そして 1st module と 2nd module で基準点を上回らなかったクラスについては 6 月の中旬から 7 月の初旬にかけて再テストが行われます。しかし問題点として、私のように半年留学をした学生は immigration office によるとここでの滞在は 7 月 1 日までと指定されています。つまり受けられない再テストも出てくるので単位を獲得できなかったクラスについては早急にスケジュールを確認することをお勧めします。個人的な意見ですが、計算を多用する授業、例えば統計学のような授業を他の授業と比べても難易度が高いと感じました。特に解答の際英語で計算式を説明するのに苦悩したのを覚えています。またすべての授業について単位を獲得できた場合、6 月に空き時間が多くなるのでその期間を使って、旅行などを計画するといいいと思います。

課外活動では 5 月の中旬に自分が所属している Asian Center が企画から運営まですべて行う春うららというイベントが開催されました。このイベントは 5 月 19 日の夕方に始まりますが、実際自分達学生は準備などの関係で 1 週間前から忙しくなってきました。またこのイベントの関係で日本からゲストの皆様はイベントの 1 週間ほど前に到着されました。自分の場合はそのゲストの方々をブカレストの中で案内するシティツアーを他の Asian Center の学生とともに行いました。具体的には、実際にガイドを行う場所の紹介文の作成、またそのシティツアーとは関係ありませんが春うららのイベントが行われる週の予定の英語版を日本語に直したりしました。自分がシティツアーを行ったのはあまりメジャーではない場所だったので、インターネットからあまり多くの情報を得ることができずにガイドブックに記載されている情報や口コミなどを参考に魅力ある紹介文を作成しました。実際にガイドの模擬体験のようなことができたのでツアーの前にどんなことを準備すればいいのか、ツアー中にどのようにゲストの方々とコミュニケーションをとるかななどを私と同じようにツアーガイドを目指している学生の行動から学ばせていただきました。またゲストの方々は皆さん仕事の中様々な困難を乗り越えてきた方々なので、来年に就活、就職を控える自分としてはいろんな助言もいただいたりして仕事についての向き合い方など勉強になることが多かった 1 週間だったと思います。あまりこのような長い時間社会人と話すことはないのもとても貴重な時間をいただきました。土曜日の本イベントも Asian Center の学生による太鼓や日本の音楽を使ってのダンスなどがみれてよかったです。このイベントを通して日本とルーマニアの強いつながり、またルーマニアの学生がこんなにも日本の文化について興味を持ってくれていることに驚きまた喜びを感じました。

生活面ではルーマニアで日本食のレストランを運営されている方のささえもあってご飯などの日本食も食べることができている、唯一心配だった食生活の乱れや健康面に

ついでに不安も解消されました。さらに5月の中旬くらいに帰りのチケットを予約したのですが、そこで変更の手数料などもかかることを初めて知って驚きました。あとなるべく早めに飛行機を予約することをお勧めします。残りあと1か月となり正直あつという間だった3か月間だったと感じます。毎日新しいこと、考え、人、言語に出会い、今は率直にルーマニア・アメリカ大学を選択してよかったと考えています。もちろん楽しいことだけではなく、言語、文化の違いをストレスに感じて帰りたいと考えたことも何回もありました。左下の写真は春うららのイベントのオープニングセレモニーの際の写真で、右下がシティツアーの時に訪れた農村博物館の写真です。

